

【報 告】

e-learning教材“BUNGO-bun GO!”の評価 —留学生を対象とする文語文関連授業での試用を通じて—

佐藤 勢紀子^{1)*}, 虫 明美喜²⁾, 角 南北斗³⁾, 金山 泰子⁴⁾

1) 東北多文化アカデミー, 2) 宮城教育大学, 3) フリーランス, 4) 国際基督教大学

2019年度に、非母語話者を対象とする文語文e-learning教材の試作版を再構築し、改訂版教材“BUNGO-bun GO!”を開発した。試作版からの主な改善点は、1) アクセス・動作の速さ、2) シンプルでわかりやすい構成、3) 語彙リストのデータベース化によるどのテキストからでも使用可能な構造、4) スマートフォンでも使いやすいレイアウト、5) 旧仮名・新仮名による振り仮名表示切り換え機能である。2020年度前期に、本教材を国内2大学の留学生を主対象とする4つの文語文関連授業で試用し、受講者を対象にアンケートを行った結果、20名からの回答が得られた。教材開発者の意図した改善点を中心に、おおむね肯定的な評価が得られ、文語文の入門段階からある程度学習が進んだ段階まで、本教材利用による学習効果、教育効果が期待される。一方で、今後の課題として、テキストページの構成の再検討、朗読音声や練習問題の提供、テキスト・参考資料の増設などが求められている。

1. はじめに

1.1 研究の背景

文語文の学習を必要とする日本語学習者は、近代以前の日本を研究対象とする日本学研究志望者を中心に、常に世界各地に存在する。また、中国では、今世紀初頭より、大学の日本語専攻の4年生が受験する「高校日本語専攻八級考試」（大学日本語専攻8級試験）において、日本の古典や文語文法に関する問題が出題されるようになった。世界の日本語学習者の約6%に相当する中国の大学の日本語専攻学生が基礎的な文語文の学習を求められていることになる¹⁾。さらに、世界の日本語学習者の学習目的を見ると、近年は実利的なものから日本の文化や歴史など日本についての知識面での関心に重点が移動してきている。若者に人気のあるマンガ、アニメ等のサブカルチャーと古典とのつながりも影響して、文語文に興味を持つ学習者が増えている（深澤2014, 佐藤ほか2016）。

このように、現在、文語文を学ぶ必要のある、あるいは文語文に関心を持つ学習者が少なからず存在する。しかし、佐藤（2015a, 2015b）で指摘されているように、日本語学習者の文語文学習環境は、海外はもとより国内でも十分に整っているとは言い難い状況である。

1.2 教材開発の経緯

このような問題を解決する一つの手だてとして、筆者ら²⁾は、2015年度に、日本語学習者がオンデマンド方式で容易に使用できる体系的で包括的な文語文e-learning教材の開発を企画した。そして、非母語話者を対象とする文語文学習に関するニーズ調査の結果をふまえ、2018年度までに、5つの素材を含む試作版教材を作成した（佐藤ほか2018）。

しかしながら、試用者に対するアンケート、インタビュー、レポートによる調査³⁾の結果、同試作版には、大きく次の2つの問題があることが判明した。

- 1) アクセスの悪さ、動作スピードの遅さ、ナビゲーション形式のわかりにくさなど、当時利用していた既存のプラットフォーム自体からくる問題
- 2) テキスト本文・文法解説・現代語訳相互の関連づけのわかりにくさ、近年急速に普及しているスマートフォンでの使用の難しさなど、コンテンツの構成やレイアウトに関する問題

これらの問題は教材の広範かつ継続的な利用を妨げる致命的欠陥であると考えられた。そこで、2019年度に、教材をプラットフォームから作り替える根本的な教材再構築を行った（佐藤ほか2020）。

*) 連絡先：sekiko610@gmail.com

1.3 本報告の目的

本報告では、改訂版e-learning教材 “BUNGO-bun GO!” を試用した留学生による評価にもとづき、同教材の日本語学習者向け文語文教材としての利用効果と問題点を明らかにすることを目的としている。改訂版教材を日本国内の2つの大学の留学生を主対象とする4つの授業で試用してアンケート調査を行い、20名の受講者から回答を得ることができた。その回答を手がかりに、教材利用の効果について検討する。併せて、教材改善のための課題も明らかにする。

以下、第2章では、佐藤ほか（2020）と重なる部分もあるが、改訂版教材 “BUNGO-bun GO!” の概要を紹介する。第3章では、4つの授業における教材の試用について報告する。第4章では、受講者を対象としたアンケート調査の概要とその結果を記す。そして、第5章でまとめと今後の課題の提示を行う。

2. 改訂版教材 “BUNGO-bun GO!” の概要

本章では、改訂版教材の概要を記し、試作版との違いを中心に、その特徴を明らかにする。

2.1 素材

試作版教材では5つの素材（古典作品）による5つのテキスト——「二十日の夜の月」、「春はあけぼの」、「ちごの空寝」、「翻訳苦心談」、「故郷」を取り上げていたが、改訂版では素材を増やし、16のテキストを収録している⁴⁾。表1に改訂版に収録したテキストのタイトル、出典、成立年代を示す。テキスト選定の方針としては、平明でわかりやすいこと、母語話者の古典教育で定番となっていること、大人が知的関心を持てること、時代・ジャンル・形式などの多様性が確保できることなどを考慮に入れた（佐藤ほか2018: 460）⁵⁾。各テキストの分量は、文部省唱歌の「故郷」が110字であるのを除いては、300字から600字の間となっている。

表1. “BUUNGO-bun GO!” 収録テキスト

テキスト名	出典	成立年代
狩の使① おぼろ月	伊勢物語	10世紀前半
狩の使② 夢うつつ	伊勢物語	10世紀前半
二十日の夜の月	土佐日記	935年頃
春はあけぼの	枕草子	10世紀末～ 11世紀初頭
ちごの空寝	宇治拾遺物語	13世紀前半
吾妻人と都人	徒然草	14世紀前半
忠度都落① 落人	平家物語 (覚一本)	14世紀後半
忠度都落② 故郷の花	平家物語 (覚一本)	14世紀後半
一寸法師① 旅立ち	一寸法師	15～16世紀
一寸法師② 上京	一寸法師	15～16世紀
一寸法師③ 姫君	一寸法師	15～16世紀
一寸法師④ 鬼が島	一寸法師	15～16世紀
一寸法師⑤ 帰京	一寸法師	15～16世紀
翻訳苦心談① 翻訳開始	蘭学事始	1815年
翻訳苦心談② 連城の玉	蘭学事始	1815年
故郷	故郷	1914年

2.2 構成

2.2.1 全体の構成

本教材はテキストと参考資料の2つのセクションで構成されている。図1は教材のトップページの画面である。教材のタイトルとイメージイラストの他には「テキスト一覧」と「参考資料」というメニューがあるだけのごくシンプルな作りになっている。



図1. 教材のトップページ

2.2.2 テキストページの構成

図1の「テキスト一覧」のメニューをクリックすると、表1に挙げた16のテキストのメニューが示され、そこからそれぞれのテキストページに入ることができる。図2～4は「春はあけぼの」(『枕草子』)のテキストページの画面である。これらの図からわかるように、テキストページは〈本文〉—〈本文の説明〉—〈現代語訳〉の3段構成になっている。

〈本文の説明〉では、テキストを文もしくは節の単位で分割し、その単位ごとに語彙の説明が見られるようにしている(図3)。図3の画面では、「春はあけぼの」のテキストの第2文が開かれ、文中の語彙が列記されているが、そこに見える語彙のうち、「やうやう」、「たり」など下線のある語をクリックすると、参考資料セクションの語彙リストの該当ページに飛び、さらに詳しい説明や他の用例が見られるようになっている(例:図5)。

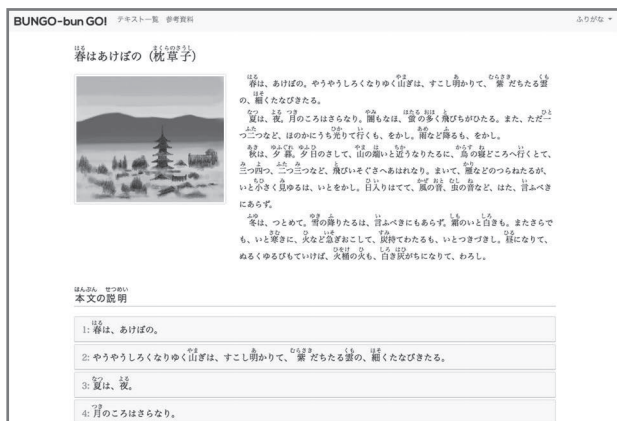


図2. 「春はあけぼの」の本文

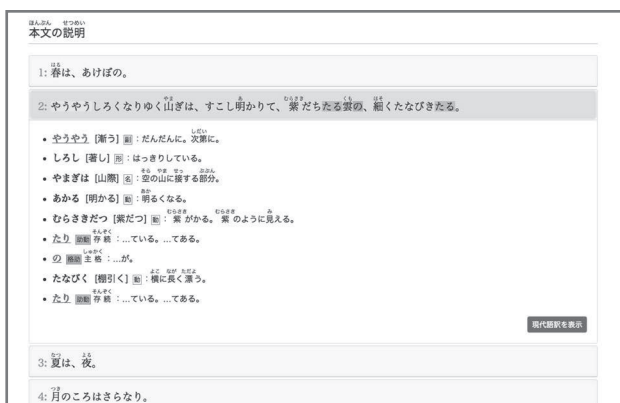


図3. 「春はあけぼの」の本文の説明

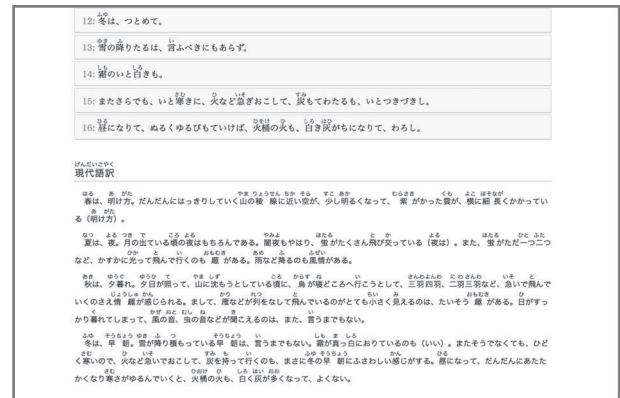


図4. 「春はあけぼの」の現代語訳

以前の試作版では、テキストに出てくる語彙の説明を、本文ページの〈文法〉、〈注釈〉、現代語訳ページの〈語釈〉の3箇所でも種別に段階的に行っていたが、それが複雑でわかりにくいという試用者の意見があったため、改訂版ではすべての語彙の説明をテキストページの〈本文の説明〉に集約した。

現代語訳については、〈本文の説明〉の部分で、各文／節の説明の右下に見える 現代語訳を表示 というボタン(図3)からその部分の現代語訳が見られるほか、テキストページ最後の〈現代語訳〉の部分でまとめて見ることができる(図4)。

試作版では、現代語訳ページで本文と現代語訳を左右に並置していたが、スマートフォンの縦長の画面に対応するため、現代語訳の配置について上記のような形を選択した。

2.2.3 参考資料セクションの構成

2.2.3.1 全体の構成

図1の「参考資料」のメニューから、参考資料のセクションに入ることができる。参考資料のセクションは、語彙リストと各種の一覧表で構成されている。

語彙リストでは、テキストに出てくる重要な語彙⁶⁾すべてを五十音順に掲載している。また、語彙を品詞別に分類して掲載したページもある⁷⁾。

文語文読解のツールとなる各種一覧表は、現時点で、次のものをPDF形式で掲載している。

- ・歴史的仮名遣いで書かれた文字の読み方
- ・品詞分類表
- ・動詞活用一覧

- ・ 形容詞活用一覧
- ・ 形容動詞活用一覧
- ・ 音便一覧
- ・ 助動詞一覧
- ・ 助詞一覧
- ・ 活用形の用法
- ・ 係り結びの法則
- ・ 敬語一覧
- ・ 和歌の修辞
- ・ 主な枕詞と掛詞

2.2.3.2 語彙リストページの構成

テキストページとリンクしている語彙リストページは、教材の要になる部分であり、ここでその基本的な構成を紹介しておく。

語彙リストページの各語彙の解説の基本的構成は次のとおりである。

- ・ 語彙 [漢字表記]
- ・ 品詞 [活用型]
- ・ 接続
- ・ 意味&用法 (クリック) → 用例

ただし、漢字表記がない語彙もあり、また、活用型と接続も必要な場合のみ示されていることは言うまでもない。

語彙ページの例として、助動詞「たり」のページを図5に示す。「たり」には「完了」と「存続」の2つの用法があるが、ここでは「存続」の詳細を展開した画面を表示している。

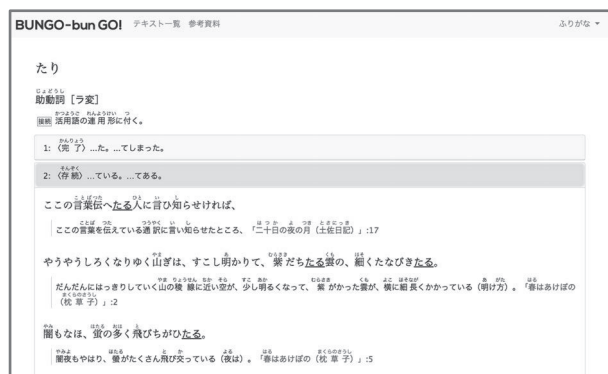


図5. 語彙リストの「たり」

この画面では存続用法の「たり」の用例が3例見えているが、これは教材のテキストにある存続用法の「たり」の全用例を列挙した中の最初の部分である。2番目の用例が、図3に見えていた「春はあけぼの」第2文の「たり」の用例である。例文の後に見えるテキスト名 (作品名) の所をクリックすると、テキストページの〈本文の説明〉の該当箇所に移動する。

2.3 機能

次に、本教材の機能として特筆すべきことを挙げておきたい。

2.3.1 テキストページと語彙リストのリンク

テキストページおよび語彙リストページの説明で既に述べたように、両者の間での移動が可能である。テキストページの〈本文の説明〉に挙げられた語彙のうち、語彙リストに採録されている重要語彙については、語彙リストの当該語彙の解説部分にリンクしている。また、語彙リストの意味・用法ごとに挙げられている例文から、テキストページの〈本文の説明〉にある当該文／節に移動して、その前後の文脈や現代語訳を確認することができる。

図6は各テキストと語彙リストの関係を示した概念図である。教材の中の各テキストはそれぞれが語彙リストと紐付けられており、語彙リストが各テキストを繋ぐ「ハブ」のような形で機能している。

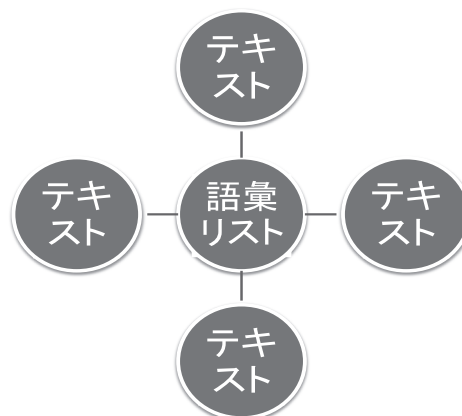


図6. テキストと語彙リストの関係

2.3.2 振り仮名の切り換え表示

図1, 図5の画面右上に見える「ふりがな」というタ

ブで、テキストの振り仮名表示のモードを、「表示しない」、「旧仮名遣い」、「新仮名遣い」から選ぶことができる。このうち、新仮名による振り仮名表示の特徴的な点は、必要に応じて、旧仮名遣いで書かれたテキストの仮名の上にも新仮名による振り仮名を付けている点である。

「春はあけぼの」の本文の振り仮名を「旧仮名遣い」モードと「新仮名遣い」モードで表示した画面を、それぞれ図7・図8に示す。

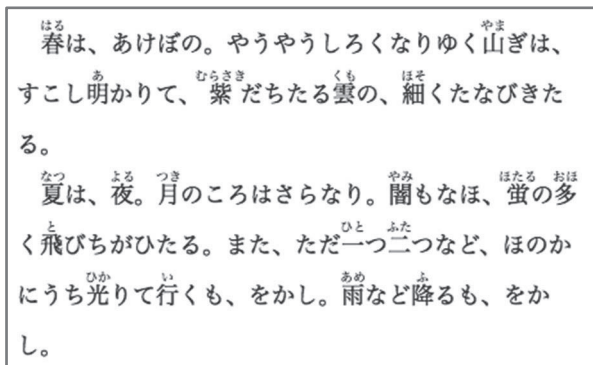


図7.「旧仮名」モードでの振り仮名表示

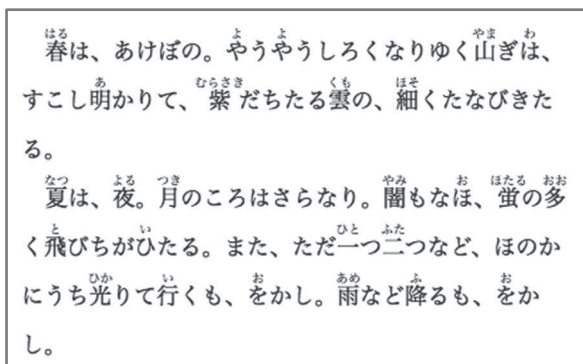


図8.「新仮名」モードでの振り仮名表示

2.4 改訂版における改善点

以上、改訂版教材の概要を紹介した。試作版からの改善点をまとめれば、次のとおりである。

- 1) アクセス・動作の速さ
 - 2) シンプルでわかりやすい構成
 - 3) 語彙リストのデータベース化によるどのテキストからでも使用可能な構造
 - 4) スマートフォンでも使いやすいレイアウト
 - 5) 旧仮名・新仮名による振り仮名表示切り換え機能
- 上記の5点のうち、3)について説明を加える。以

前の試作版でも、本文ページの〈文法〉の欄に挙げた語彙から語彙リストへのリンク、また語彙リストの例文から現代語訳ページへのリンクはあったが、〈文法〉で重要語彙として取り上げていた語彙はテキストによって異なっていた。つまり、試作版では、テキストごとに重点的に学ぶべき語彙や語法があった。一方、改訂版教材においては、重要語彙と判定された語彙はどのテキストに出てきてもすべてマークされ、語彙リストとリンクされており、語彙リストはテキストに出てくる重要語彙の用例のデータベースとなっている。よって、試作版では、どのテキストから学ぶかにより学習効果が左右される作りとなっていたのに対し、改訂版では、テキストの難易度の違いはあるものの、語彙リストの情報を手がかりに原理的にはどのテキストからでも学べるようになっていていると言える。

3. 教材の試用

3.1 教材を試用した授業

改訂版教材“BUNGO-bun GO!”を、2020年度前期開講の留学生を主対象とする4つのオンライン授業で試用した⁸⁾。表2にそれぞれの授業の概要を示す⁹⁾。

なお、東京大学の2つの授業における受講者数は、教材を試用した最終回に出席した受講者の数である。また、東京大学の2つの授業、東北大学の2つの授業

表2. 教材を試用した授業の概要

授業科目名	機関	担当者	時間・回数	受講者数	受講者のレベル
古典入門	東京大学	金山	105分・13回	9名	上級
文語文献講読		金山	105分・13回	8名	上級
中上級日本文化演習：古典入門	東北大学	佐藤	90分・14回	11名	上級
中上級共修ゼミ：文学で学ぶ日本		虫明	90分・15回	16名	中上級・上級

では、それぞれ重複受講している受講者が数名いた。

最後に挙げた東北大学の「文学で学ぶ日本」は、全学教育の国際教育科目「日本社会・文化A」と合同開講の国際共修ゼミ¹⁰⁾で、クラスには日本人学生も参加していたが、ここでは留学生の受講者数を記した。

3.2 教材試用の方法

3.2.1 「古典入門」(東京大学)

東京大学の2つの授業では、最終回の7月9日の授業で受講者に教材を紹介し、試用した。「古典入門」では、それまで学習してきた古典文法の基礎知識を実際の文語文読解に応用するファーストステップという位置づけで、教材の中の「ちごの空寝」(『宇治拾遺物語』)を取り上げ、45分間の試用を行った。試用の手順は以下のとおりである。

- ① 教材説明 (10分)
- ② 各自、教材上の資料・説明を参考にしながら、本文を読む (10分)
- ③ 全員で集まり確認 (25分)
 1. 全文を音読。
 2. すこしずつ区切って、現代語を参照し現代語訳、語彙、文法などを確認。

③の現代語訳に関しては、「念じて寝たるほどに」まで確認した。教材を見ずにチャレンジしてもよいし、教材を参照してもよい、としたが、受講者は皆教材に提示された現代文を読んでいて、教材では語彙も文法も十分に説明されており、受講者からポジティブな反応が得られた。質問が出ることはほとんどなかったが、「わろかりなん」の「なん」、「もの申しさぶらはん」の「ん」など助動詞の活用と意味については補足説明が必要で、復習を兼ねて説明を行った。

3.2.2 「文語文献講読」(東京大学)

東京大学でのもう一つの授業「文語文献講読」は、文語文法既習者が対象で、中古から近代の文語で書かれた作品を読む授業である。この授業では、教材の中の「翻訳苦心談」を取り上げた。試用にかけた時間は55分間で、手順は以下のとおりである。

- ① 教材説明 (10分)
- ② 各自、教材上の資料・説明を参考にしながら、本文を読む (15分)
- ③ 全員で集まり確認 (30分)
 1. 全文を音読。
 2. すこしずつ区切って、現代語訳、語彙、文法などを確認。

③の現代語訳に関しては、教材を見ずにチャレンジしてもよいし、教材を参照してもよい、としたが、受講者は皆教材に提示された現代文を読まずに自力で訳していた。受講者にとって特に文法的に難しい箇所はなかったが、「図のはじめとはいひ」の「とはいひ」について、現代日本語の「とはいえ」との違いを問う質問が出た。

3.2.3 「古典入門」(東北大学)

一方、東北大学の「古典入門」では、教材を初回のガイダンスで紹介し、5月6日に行われた2回目の授業でアカウントを受講者に知らせて試用を促した¹¹⁾。「BUNGO-bun GO!」に入っている教材を授業の予習・復習に活用することと、用言一覧、助動詞一覧など参考資料の一覧表を随時参照することを指示し、クラスでもサイトに入って教材の使い方の説明を行った。

「古典入門」の授業日程表を表3に示す。同表で網かけを施したテキストは、受講者が交代で下調べと音読を担当し、クラスで読解したテキストである。一方、テキスト名の後に(e)と付記したテキストがe-learning教材“BUNGO-bun GO!”に掲載されているテキストで、2回目、3回目の授業では文法の基礎学習の素材として取り上げ、また5回目と7回目では関連教材として紹介し、自習による読解を促した。

このほか、13回目の授業で、敬語についての学習をした後、教材を用いて「敬語探し」のグループワークを行った¹²⁾。その時点で、教材には6つのテキスト¹³⁾しかなかったため、敬語の数は限られており、「二十日の夜の月」(『土佐日記』)に「神も詠ん給ひ」の1例、「ちごの空寝」(『宇治拾遺物語』)に「物申し さぶらはん」,「おどろかせ給へ」,「な起こしたてまつりそ」,「寝入り給ひにけり」の5例¹⁴⁾、「故郷」(文部省唱歌)に「如何にいます父母」の1例が見られるのみであった。

表3. 「古典入門」(東北大学)の日程表

回	テーマ	作品	テキスト
1	ガイダンス		
2	文法の基礎 (1)	宇治拾遺物語	故郷(文部省唱歌)(e) ちごの空寝(e)
3	文法の基礎 (2)	土佐日記	二十日の夜の月(e)
4	歌	古今和歌集 再び歌よみに 与ふる書	仮名序・他 貫之は下手な歌よみに て
5	季節感 不快感	枕草子	春はあけぼの(e) にくきもの
6	美意識	徒然草 玉勝間	花はさかりに けんかうほうしがつれ づれ草に
7	学問	蘭学事始 うひ山ぶみ	翻訳苦心談(e) まづかの学びのしな なは
8	無常観	奥の細道	松島・平泉
9	他界	古事記	黄泉の国
10	別離	竹取物語	かぐや姫の昇天
11	恋愛	伊勢物語	狩の使
12	怪異 (1)	今昔物語集 融(謡曲)	河原院
13	怪異 (2)	源氏物語	宵過ぐるほど(夕顔巻)
14	死生観	平家物語 和漢朗詠集	忠度都落 餞別

た。「ちごの空寝」では、クラスで学習した際になぜ僧たちが稚児に対して敬語を使うのかが話題になった経緯があり、このテキストに関しては正解率が高かったが、それ以外、特にクラスで扱う時間がほとんどなかった「故郷」については探し当てるのが難しく、与えられた10分ほどの間にすべて回答できたグループは4グループのうち1グループのみであった。活動終了後、クラスであらためてサイトに入り、正解を確認した上で、動詞、補助動詞、助動詞の語彙リストに入って学習した敬語を探すと効率がよいということを伝えた。この活動についてはその場で参加者の感想を聞く機会がなく、後述のアンケート調査でも特に言及がなかったのが残念であるが、受講者はゲーム感覚で楽し

んでいたという印象を受けた。教材の利用方法の1例として紹介しておく。

3.2.4 「文学で学ぶ日本」(東北大学)

東北大学のもう一つの授業「日本社会・文化A／文学で学ぶ日本」では、近代文語文で書かれた正岡子規の紀行文『はて知らずの記』を授業の中の主要テキストとして読解する必要上、文語文法の学習が必要となっている。日本人学生と留学生がともに学ぶ国際共修ゼミの一つであるこのクラスは、全受講者24名のうち留学生は16名という構成であった。留学生の中で、文語文法初習者が11名いたため、授業の第5回から第8回を使って文語文法を学習し、その後3人ずつのグループに分けて、グループ学習と担当箇所の発表を行った。

第5回の文語文法学習の初回に、「古典入門」(東北大学)と同様、“BUNGO-bun GO!”に入っている用言一覧、助動詞一覧など参考資料の一覧表を随時参照することを指示し、クラスでもサイトに入って教材の使い方の説明を行った。通常であれば、日本人学生が教室にいるメリットを十分に活かして、旧仮名遣いの読み方をはじめ文語文法のわからないところは、そばにいる日本人学生に聞いてもらうことができる。しかしながら、2020年度前期のクラスでは、Covid-19の流行による遠隔授業の実施によって、すべての資料をオンライン上にアップロードし、そこで説明をして質問も受ける、という状況になった。“BUNGO-bun GO!”は、オンライン上の教材として、学習者がいつでも参照できる参考資料としての教材使用にとどまったが、短期間集中の文語文法学習であったからこそ、常時参照可能なオンライン教材の存在は重要であった。

4. 受講者からのフィードバック

4.1 調査方法

教材についてのフィードバックを得るために、教材を試用した4つの授業の受講者を対象に、Web上でのアンケート調査を行った。回答期間は授業終了後に設定し、東京大学では2020年7月10日～7月31日、東北大学では7月29日～8月14日とした。アンケート実施に際し、「e-learning教材の情報と調査協力をお願い」

と題した通知を受講者に送り、教材へのアクセス方法とアンケートのURLを知らせるとともに、複数の授業の受講者は1回だけ回答するよう指示し、アンケートへの回答と授業の成績は無関係であること、調査結果は個人名がわからないようにした上で研究・教育に使用することを伝えた。

アンケートの質問項目は、回答者のプロフィールを問う質問8項目および教材についての感想や意見を問う質問14項目から成っている。調査票を本稿の付録として掲載する。

4.2 調査の結果と考察

4.2.1 回答者

アンケートを行った結果、20名の受講者（東京大学9名、東北大学11名）から回答を得た。東京大学の授業の受講者は、「古典入門」のみが4名、「文語文献講読」のみが2名で、両方の授業の受講者が3名であった。東北大学の授業の受講者は、「古典入門」のみが

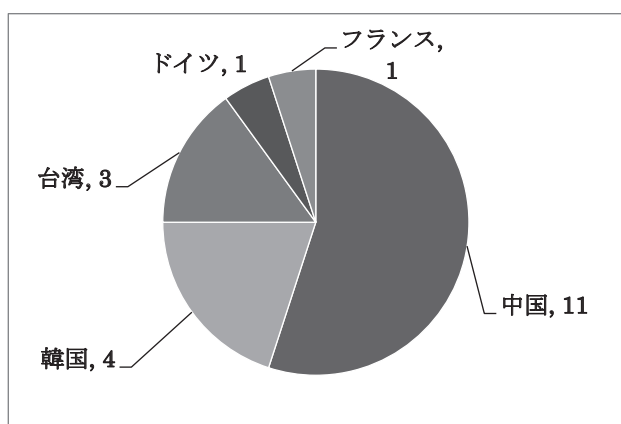


図9. 回答者の出身国・地域

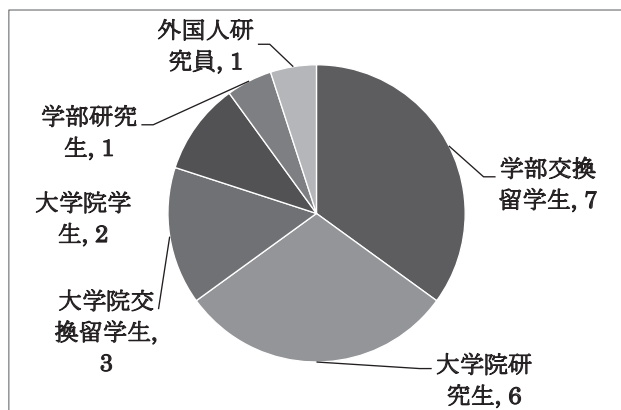


図10. 回答者の身分

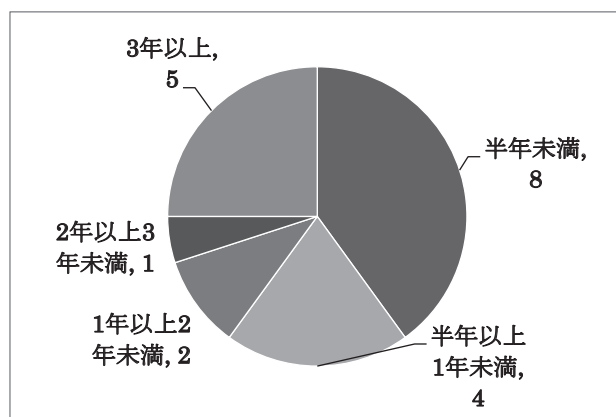


図11. 回答者の文語文学習歴

7名、「古典入門」と「文学で学ぶ日本」の重複受講者が4名であった。

回答者のプロフィールを図9～図11に示す。回答者のうち漢字圏出身者が約3分の2を占めている。身分は様々で交換留学生と研究生が多く、その他大学院生、外国人研究員がいる。文語文の学習歴は、半年未満、つまり受講した授業で文語文に入門したケースが最も多く8名に上るが、3年以上学習している者も5名おり、回答者の学習段階が一樣でないことがわかる。

4.2.2 教材の使用状況

第3章で述べたように、本教材をそれぞれのクラスで試用したが、クラス外で教材を使った場合、どのような目的で使ったかをたずねた（複数回答可）。「授業の予習」が9名、「授業の復習」が10名、「自習」が8名であった。また、クラスの内外を問わず、当時掲載されていた6編のテキスト¹⁵⁾のうち何編を読んだかについては、最終日に教材を紹介した東京大学ではクラスで扱ったものを中心に1～3編であったが、東北大学では4編以上読んだ回答者が11名のうち9名、6編すべて読んだ回答者も5名に達した。

4.2.3 教材についての感想・意見

4.2.3.1 教材全体

アンケートの第9問で、クラスで教材を使った時の感想の記述を求めた。15名が回答した中で、「使いやすい」という表現が7名の回答に、「わかりやすい」、「助かる」という表現がそれぞれ3名の回答に見られ、

その他「よい」、「役に立つ」、「読みやすい」などの表現も見られた。より具体的には、「ページのデザインがきれい」、「ウェブサイトのデザインは明確」、「ルビもつけてくれているので、より親近感を感じている」などの記述が見られた。クラスでの教材試用が全体に好印象を以て受け止められていることがわかる。ただし、「たくさんのテキストがあることを期待している」、「資料が豊富になれば、ぜひ使いたい」など、テキストや資料の少なさを示唆する記述もあった。

アンケート最後の第22問でも、教材全体についての感想や要望をたずねた。ここでも、「教材全体は非常に良い」、「授業の材料に非常に便利な補足だ」、「教材が豊富で、わかりやすく作られているので、授業以外の時に自分一人でも勉強できてとても助かる」、「オンラインツールの重要性をよく反映した」教材で「文語文献の勉強にとっても役立ったので大満足した」などの高評価のコメントと「これからも多くの資料をアップロードしてほしい」という要望の両方が見られた。その他、テキストの読み上げ音声を求めるコメントが2件あり、また、「文法やテキストの理解度チェックを」、「もっと自習できるようにゲームやクイズ形式も取り入れれば」という練習問題の提供への要望があった。

4.2.3.2 テキストセクション

アンケートの第12問から第17問までで、テキストセクションについての質問をした。以下、その部分の回答について報告する。

まず、〈本文〉—〈本文の説明〉—〈現代語訳〉というテキストページの構成については、「とてもわか

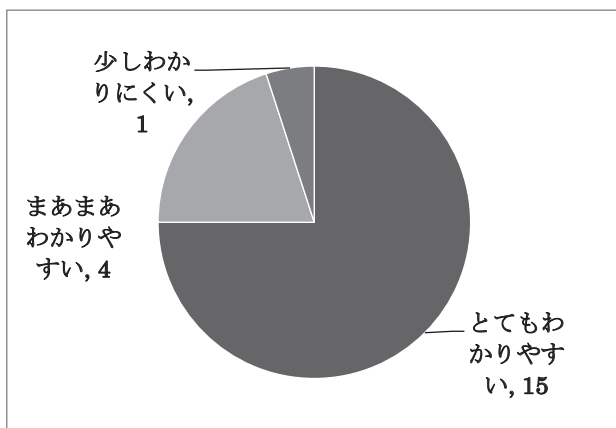


図12. テキストページ構成のわかりやすさ

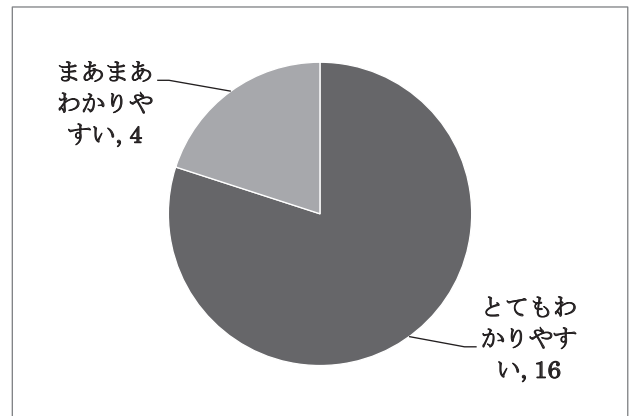


図13. 本文の説明のわかりやすさ

りやすい」と「まあまあわかりやすい」が合わせて19名、「少しわかりにくい」が1名であった（図12）。続いてテキストページの構造についてのコメントを求めたところ、本文と現代語訳が離れていて不便なので本文の所で現代語訳がすぐ見られるようにしてほしいという趣旨のコメントが3件あった。

〈本文の説明〉の説明のしかたについては、「とてもわかりやすい」が16名、「まあまあわかりやすい」が4名であった（図13）。コメントとしては、本文を分けて説明することへの評価が2名から寄せられ、「品詞や単語の意味がすぐに理解できる」、「各語彙の意味や説明を確認できてとても便利」と記されていた。一方、「本文の文字的な意味だけでなく深層の意味もあれば」、「現代語でも分かるぐらいの簡単な文法の説明は省いてもいい」などの意見もあった。

テキストページ冒頭のタブで操作できる振り仮名切り換え機能についてもコメントを求めた。「とても便利」、「すごく良い」、「新かなは初心者にとってやさしい」、「文語の初級レベルだと、「新かな」の読み方が一番分かりやすいと思うので、役に立つ」、「朗読の練習が容易」、「あいまいなところは新かなで確認できるので便利」、「新かながあるので、文語の正しい読み方を確認しやすい」、「チャレンジしたければ「なし」で読んでみたらよい」など、多くのポジティブな回答が得られた。文語文の初習者にとっても、既習者にとっても、この振り仮名切り換え表示の機能が有用と見られていることが明らかである。

テキストページについての最後の質問で、今後教材にどのようなテキストを載せてほしいかをたずねた。

具体的な作品名としては、『源氏物語』（5例）、『今昔物語集』（2例）などが挙げられた。より抽象的な記述では、「有名な作品」、「代表的なテキスト」、「日本人が高校時代に読むべきテキスト」など、いわば「定番」のテキストを求める要望が多く見られた。候文を入れたほうがいいという意見もあった。

4.2.3.3 参考資料セクション

第18問から第21問までで、参考資料セクションについての質問を行った。ここで、その回答を報告する。

まず、語彙リストについては、

単語をクリックした時、原文のどこに該当するか分かるように例文として文章が出てくるのがわかりやすいと思います。助詞とかは説明だけでは意味がよく伝わらないです。

というコメントがあった。今回の改訂版教材における改善点の一つであった語彙リストとテキストページのリンクが肯定的に評価されていることがわかる。語彙リストについては、そのほか、語彙を覚え易くするためクイズ形式で繰り返し練習できるようにしてほしいという要望があった。

次に、語彙リスト以外の参考資料について、役に立つ／役に立ったと思うものを複数回答可でたずねた。その結果を図14に示す。回答者が特に多かったのは、

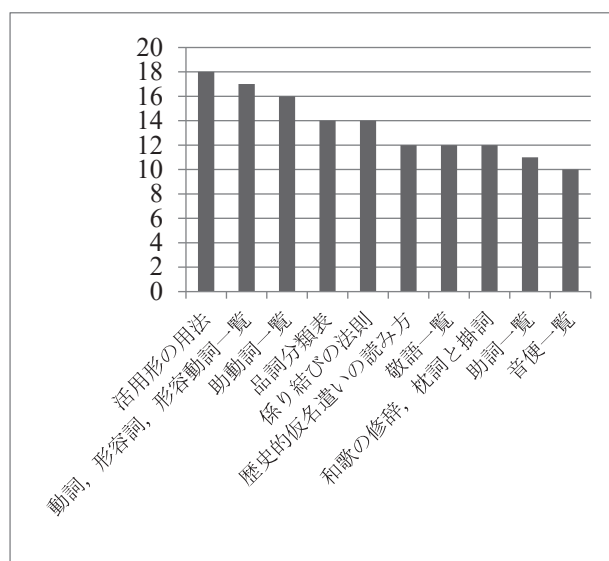


図14. 役に立った参考資料

「活用形の用法」(18名), 「動詞, 形容詞, 形容動詞一覧」(17名), 「助動詞一覧」(16名)であった。「活用形の用法」の表は、未然形から命令形までの6種類の活用形がどのような場合に使われるかを網羅的に挙げて例文を付したもので、市販の古文参考書等にはほとんど例がなく¹⁶⁾、初心者のみならず学習段階が進んだ者にも既知の文法的知識を整理するのに役立ったのではないかと考えられる。

参考資料全体については、「一目で見渡せてよかった」、「とてもわかりやすく整理されている」、「分類されているので使いやすい実用資料」など肯定的なコメントが多かったが、PDFだけでなくウェブでも見られるようにしてほしいという意見もあった。また、参考資料として現在掲載されているもののほかにあればよいと思うものをたずねたところ、テキストの出典についての解説、用言の活用の種類の見分け方、時代やテキストによる頻出文型の違い、間違いやすい語の識別方法などが挙げられた。

5. まとめと今後の課題

以上、試作版を再構築して新たに開発したe-learning教材 “BUNGO-bun GO!” の概要を紹介し、同教材の授業での試用とそれに関する受講者アンケートの結果を報告した。

教材開発者の意図した改善点を中心に、おおむね使用者の肯定的な評価が得られており、文語文の入門段階からある程度学習が進んだ段階まで、本教材利用による学習効果、教育効果が期待される。一方で、テキストページの構成の再検討、朗読音声や練習問題の提供、テキストと参考資料の増設などが求められている。いずれも今後の課題としたい。

付記

本研究は、科学研究費助成事業基盤研究 (C) 17K02835 「日本語学習者を対象とする文語文e-learning教材および文語文教授法の開発」(2017～2019年度) および基盤研究 (C) 20K00720 「非母語話者の文語文学習支援のためのシラバス・教授法開発および研修システムの構築」(2020年度～2022年度) による助成を受けて行った。

謝辞

アンケートへの回答によりフィードバックをいただいた改訂版教材使用者のみなさんに感謝いたします。

注

- 1) 2015年度国際交流基金「海外日本語教育機関調査」によれば、中国の高等教育機関の日本語専攻者は210,452人に上り、全世界の教育機関における学習者の5.8%を占めている。
- 2) 筆者らのうち、佐藤、虫明。
- 3) 試作版教材についてのアンケートは2016年7月および2017年7月から8月に実施し、14名からの回答を得た。その詳細については、佐藤ほか（2018）を参照されたい。インタビューは2018年6月から2019年4月にかけて14名を対象に実施した。また、2019年2月に3名の試用者から教材についてのレポートが提出された。インタビューとレポートの詳細については、佐藤ほか（2020）を参照されたい。
- 4) 試作版教材では、「翻訳苦心談」は1つのテキストになっていたが、分量が多いため2つに分けて「翻訳苦心談①」、「翻訳苦心談②」とした。
- 5) 佐藤ほか（2018）では、テキスト選定のもう1つの方針として、相互に関連した内容を持つ「複合教材」の実現を目指した素材の構成を挙げたが、現時点ではまだテキスト数が少ないため、これについては今後の課題とする。
- 6) 日本語能力試験N1レベルの日本語学習者にとって既習ではないと考えられる語彙で複数の古語辞典で重要語とされている語彙に加え、既習と考えられる語彙の中でも現代語と異なる意味を持っている語彙を重要語彙と見なした。既習ではないと考えられる語彙でも、古語辞典での扱いが軽く、使用頻度が低いと見られる語彙は、テキストページの〈本文の説明〉で説明するにとどめ、語彙リストには掲載しなかった。
- 7) なお、テキストごとの語彙リストもあり、トップページのテキスト一覧のメニューから入ることができる。
- 8) いずれもZoomによるリアルタイムのオンライン授業である。具体的な実施方法等は2020年8月20日にオンラインで開催した「BUNGO-bun project 第1回研究会」で報告した。同研究会の詳細については稿を

改めて報告する予定である。

- 9) 東京大学の「古典入門」および「文語文献講読」の詳細については向井（2018）、東北大学の「古典入門」の詳細については佐藤（2014）を参照されたい。
- 10) 国際共修ゼミは、東北大学で2009年度から開設されている日本人学生と留学生の共同作業やディスカッションを主体とした少人数ゼミで、近年では日本語ベースの授業に限っても年間40クラスほど開講されている。
- 11) この時点で教材は未公開であり、アカウントは一時的なものであるとした上で、試用のためのアカウントを知らせた。
- 12) 授業はZoomを利用したリアルタイムのオンライン授業であったため、ZoomのBreakout Roomの機能を使って受講者を4つのグループに分け、グループワークを行った。
- 13) 「二十日の夜の月」、「春はあけぼの」、「ちごの空寝」、「翻訳苦心談①」、「翻訳苦心談②」、「故郷」の6編である。
- 14) 「おどろかせ給へ」の「せ給へ」は二重尊敬の表現であるが、単語で分ければ助動詞「す」と補助動詞「給ふ」の2語となり、6例とカウントすることもできる。
- 15) アンケート実施時には、注13)に挙げた6編のテキストが掲載されていた。テキストの増設は2020年9月に行った。
- 16) 松村ほか編（2015）の付録に「活用形の用法一覧」があり、そのコンセプトを参考にした。改訂版教材に掲載した「活用形の用法」の表では、それぞれの活用形に後接する語を「助動詞」「助詞」「その他」に分類して色分けし、例文を可能なかぎり教材中のテキストから選び出している。

参考文献

- 深澤愛（2014）「外国人留学生の文語文法・古語学習について考える（3）一文語形容詞の場合」『文学・芸術・文化』第26巻第1号，pp.141-154.
- 松村明・山口明穂・和田利政編（2015）『旺文社 古語辞典〔第十版増補版〕』旺文社.
- 向井留実子（2018）「日本語で学位取得を目指す大学院留学生への指導・支援の課題—東京大学大学院人文社

会系研究科・文学部における実践を通して」『文化交流研究, 東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』第31号, pp.49-62.

佐藤勢紀子 (2014) 「留学生を対象とする古典入門の授業—日本語学習者のための文語文読解教材の開発を目指して—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第9号, pp.99-113.

佐藤勢紀子 (2015a) 「文語文を学ぶ日本語学習者が困難を感じる点—非漢字系日本学研究者に聞く—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第1号, pp.163-172.

佐藤勢紀子 (2015b) 「文語文を学ぶ漢字系学習者が困難を感じる点—中国・台湾の日本学研究者に聞く—」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』第7号, pp.25-32.

佐藤勢紀子・虫明美喜・楊錦昌・小野桂子 (2016) 「文語文を素材とした日本語・日本文化教育」『2016年度日本語教育学会春季大会予稿集』, pp.78-89.

佐藤勢紀子・小野桂子・虫明美喜 (2018) 「文語文を学ぶ非母語話者のためのe-learning教材—試作版教材の利用可能性と課題—」『ヨーロッパ日本語教育』第22号, pp.458-465.

佐藤勢紀子・虫明美喜・串田紀代美・角南北斗 (2020) 「非母語話者のための日本語文語文e-learning教材の再構築」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第6号, pp.153-167.

付録

“BUNGO-bun GO!” についてのアンケート調査

1. あなたの名前を書いてください。(任意)
2. あなたのメールアドレスを記入してください。(任意)
3. あなたの出身国／地域はどこですか。
4. あなたの母語はなんですか。
5. あなたの日本の大学での身分はなんですか。
 - ☐ 学部学生
 - ☐ 学部交換留学生
 - ☐ 学部研究生
 - ☐ 大学院学生
 - ☐ 大学院交換留学生

- ☐ 大学院研究生
- ☐ 外国人研究員
- ☐ その他

6. 今までの日本語文語文の学習期間はこれまで合わせてどれぐらいですか。

- ☐ 半年未満
- ☐ 半年以上1年未満
- ☐ 1年以上2年未満
- ☐ 2年以上3年未満
- ☐ 3年以上

7. あなたは日本の古語や古典文法の知識がどのぐらいあると思いますか。

- ☐ 基礎的な知識はある
- ☐ 断片的な知識はある
- ☐ ほとんどない
- ☐ まったくない

8. あなたが文語文教材 “BUNGO-bun GO!” を知った／使ったクラスは次のうちどれですか。(複数回答可)

- ☐ 「古典入門」(東京大学)
- ☐ 「文語文献講読」(東京大学)
- ☐ 「上級日本文化演習：古典入門」(東北大学)
- ☐ 「日本社会・文化A／文学で学ぶ日本」(東北大学)

9. クラスで “BUNGO-bun GO!” を使った時の感想をお願いします。使っていない場合は、「使っていない」と書いてください。

10. クラス以外で, “BUNGO-bun GO!” をどのような目的で使いましたか。

- ☐ 授業の予習のため
- ☐ 授業の復習のため
- ☐ 文語文学習(自習)のため
- ☐ このアンケートに回答するため

11. 教材の中のテキストについて質問します。どのテキストを読みましたか。(複数回答可)

- ☐ 二十日の夜の月(『土佐日記』)
- ☐ 春はあけぼの(『枕草子』)
- ☐ ちごの空寝(『宇治拾遺物語』)
- ☐ 翻訳苦心談1(『蘭学事始』)
- ☐ 翻訳苦心談2(『蘭学事始』)
- ☐ 故郷

12. テキストの読みがなは「旧かな」「新かな」「なし」の

3つから選ぶことができます。これについて、何かコメントがあれば書いてください。

13. テキストページの構造（「本文」―「本文の説明」―「現代語訳」）の見やすさ、わかりやすさはどうですか。

- ☐ とてもわかりやすい
- ☐ まあまあわかりやすい
- ☐ 少しわかりにくい
- ☐ とてもわかりにくい

14. テキストページの構造について、何かコメントがあれば書いてください。

15. 「本文の説明」の説明のしかたについて質問します。

わかりやすさはどうですか。

- ☐ とてもわかりやすい
- ☐ まあまあわかりやすい
- ☐ 少しわかりにくい
- ☐ とてもわかりにくい

16. 「本文の説明」の説明のしかたについて、何かコメントがあれば書いてください。

17. 今この教材には6つのテキストがありますが、他にどのようなテキストがあればよいですか。作品名・史料名などがわかればそれも書いてください。

18. 「語彙リスト」について、何かコメントがあれば書いてください。

19. 教材の中の参考資料について質問します。あなたにとって、どの参考資料が特に役に立つ（役に立った）と思いますか。（複数回答可）

- ☐ 歴史的仮名遣いで書かれた文字の読み方
- ☐ 品詞分類表
- ☐ 動詞一覧、形容詞一覧、形容動詞一覧
- ☐ 音便一覧
- ☐ 助動詞一覧
- ☐ 助詞一覧
- ☐ 活用形の用法
- ☐ 係り結びの法則
- ☐ 敬語一覧
- ☐ 和歌の修辭、主な枕詞と掛詞

20. 参考資料について、何かコメントがあれば書いてください。

21. 参考資料として、他にどんなものがあればいいと思いますか。あれば書いてください。

22. 教材全体について、感想、要望など何かコメントがあれば、お願いします。